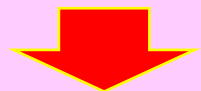


令和7年度帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業 実施体制

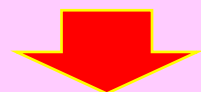
伊賀市教育委員会

伊賀市における課題

外国人児童生徒
市内小中学校28校中24校
に在籍



小数点在傾向



外国人児童生徒への指導
において、方法や内容に
ばらつきが見られる

拠点校の設置による拠点的機能の整備

日本語指導コーディネーターの派遣

進路ガイダンスの実施

外国人児童生徒教育担当者研修会

初期適応指導教室の運営

「特別の教育課程」による指導

【進路ガイダンス参加者から】

- ・たくさんの疑問が解消され、とても役に立った。
- ・とてもわかりやすく、自分が何をすべきか考えることができた。

【研修会参加者から】

- ・進路に関わる情報を早い段階から保護者に提示し、ともに考えていくことの大切さがわかった。
- ・『やさしい日本語』を使って指導していくとともに、子どもの『学習言語』を意図的に増やしていきたい。

成果

- ・進路ガイダンスの実施により、児童生徒のそれぞれの進路に向けて展望を持たせることができた。また、保護者にとっても貴重な情報提供の場となっている。
- ・日本語指導コーディネーターの派遣により、指導体制や指導上の課題に応えることができた。
- ・初期適応指導教室の運営により、初期日本語指導や学校への適応指導に一定の効果をあげている。
- ・拠点校の「特別の教育課程」による実践を普及することができた。

課題

- ・持続的な指導を可能にする人的配置や学習環境の整備
- ・初期適応指導教室終了後の指導体制の整備
- ・初期適応指導教室の指導者確保
- ・JSLカリキュラムによる、どの児童生徒にとってもわかりやすい授業の展開
- ・「特別の教育課程」のさらなる充実
- ・外国人児童生徒教育担当者会等、あらゆる機会をとらえた拠点校の実践のより一層の普及

